



ニュース

1 1

月号

発行日：2019年10月27日  
発行所：カトリック横須賀三笠教会  
TEL：046-823-0042  
FAX：046-823-1031  
e-mail：[mikasa-news@cap.ocn.ne.jp](mailto:mikasa-news@cap.ocn.ne.jp)

「神の愛を証する」を考える(「小教区のあり方の見直し」3)

三笠教会 主任司祭 浜崎真実

どの小教区でも、福祉活動についての関心は比較的高いようです。地域社会への福音宣教(社会の福音化+洗礼に導く)になると考えるからでしょう。しかし、一般に小教区で行われる「慈善活動」としての福祉活動は、本当に福音宣教(社会の福音化+洗礼に導く)につながるのか、大きな疑問があります。そこでS教会で昔から行われている「慈善活動」を分析し、福音宣教(社会の福音化+洗礼に導く)とのつながりを探ります。

S教会では、有志の皆さんが「チャリティーコンサート」を企画、実施して、その収益をどこかへ寄付します。主日のミサの後、お昼にパンの販売をしてその純益金をどこへ送ればいいのか悩む係があります。バザーやイベントなどの後にも収益がありそれをどう扱えばいいのか話し合います。長年SVP(聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会)活動に寄付をくださる方がいます。毎年12月になると、いくつかの施設に送金するために、集まったお金を分配する会議を開きます。

また災害などが発生した際、緊急募金を実施しカリタスジャパンを通して被災地に届けます。他にもあるとは思いますが、これらの慈善活動の共通点に気づきました。賛同する方たちがおのおのじぶんこのしゅだんかつどうえらきふかねきょうかいかつどうかいなまえせい各々自分が好む手段や活動を選んで寄付したお金を、教会や活動グループ(○◇会)の名前で生かつかんきゆうしゃえらたいしょうしせつくば活困窮者やこちらが選んだ対象の施設に配るということです。

もちろんそのような金銭的な援助活動は価値のあることですが、キリスト者として、それが必ずしも社会の福音化につながるわけではありません。なぜなら困っている人を助けることは、人間として健全な心の現れだからです。その意味で、社会の福音化とは直接の結びつきはないと言わなくてはなりません。社会の福音化とは、個人が洗礼を受けるとか善い人になることとは直接は関係のないことです。

そのことについてマタイ福音書の「最後の審判」の場面と使徒言行録のエルサレム神殿の前で施しを乞うている足の不自由な人にペトロがどのように対応したのかという二つから考えてみます。まずマタイの「最後の審判」の場面では、キリストを知らなくても社会的弱者とされた困窮状態にある人を助けると、それがキリストに結ばれます。洗礼を受けているかそうでないかは最後の審判では問われません。問われているのは社会的弱者とのつながりなのです(マタ 25: 31-46)。次に、施しを乞う足の不自由な人への対応です。使徒言行録を見ると、エルサレムにいた足の不自由な男は、ペトロとヨハネを見て施しを乞いました。そのとき、ペトロは言いました。「私には金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」。そして、右手を取って彼を立ち上がらせた。(使 3: 1-8 参照)。社会的弱者への関わりがそこには描かれています。つまり、イエス・キリストへの信仰(=相手の中にある力に信頼する)をもって関わると、その人に希望と意欲が芽生え、自ら立ち上がり歩き出したのです。

社会的弱者とされている生活困窮者への関わりとしては、健全な心で痛みを共感するのは望ましいことですが、大切なのは人権尊重です。実例をあげると S 教会を訪れる野宿者の中には、お金や宿を求め方がいます。教会はそれを提供しません。住む場所がないくらいに困窮状態に陥っている人に住居を提供し、最低生活を保障する義務を負っているのは行政です(憲法 25 条の生存権保障に基づく「生活保護法」)。だから、教会は生活困窮者と共に立ち上がり、行政と関わりながら、自ら歩き出すように促します。行政に対しては無条件にあるいは無批判に協力するのではなく、批判的に協力するのです。

一つの夢を見ました。数年経ってから、S 教会は市民の間で次のような評判になっているのです。「古い建物ではあっても、たくさんの人が訪れる巡礼地ではないようです。でも人は『あそこに行けば、お金はもらえないけれど、生きる力が出てくるよ』と言っているのです」。そのとき、S 教会は社会の福音化の一端を担っていることになるのではないのでしょうか。復活したキリストから託された使命を果たすために、地域社会に派遣されているとは、このような夢を一緒に見て語ることだとは思いませんか。

## 10月の教会委員会

10月6日(日)に開催された教会委員会の報告です。

1 10、11月の行事を確認しました。

2 報告・確認・連絡事項

### (1) 典礼

① 9月22日に「長寿の集い」ミサが行われました。

② 9月23日に秋の追悼ミサが行われました。

③ 日本人、フィリピン人のコミュニティの関係を密にするために、11月から教会委員会にYMFCから2名参加するよう要請します。

(2) 教会学校

① 初聖体の対象者は約7名。外国人向けにもお知らせします。

(3) 中高生会

① 入信に向けて2名が勉強中です。

(4) 共同宣教司牧

【祈る力を育てる部門】

① 9月22日「司祭不在の時の主日の集会祭儀（試用版）」について学習会がありました。

【神の愛を証しする力部門】

① 9月22日由比ヶ浜教会にてGAYA横須賀島田所長の講演会が行われました。

(5) 総務

【施設管理】

- ① 維持費投入函の移設工事発注を承認しました。
- ② 司祭館のルーター移設等工事完了が報告されました。
- ③ 9月8日夜、台風15号により聖堂屋根最上部西端が約5m破損しました。雨漏りなどの異常はありません。

【2020年度予算】

① 上下水道埋設管更新工事250万円、合葬墓新設工事374万円などを計上しました。

【叙階式準備委員会】

① 9月8日逗子教会にて開催されました。

【長寿の集い】

① 反省会を行い、今までのように案内状を送ってほしいとの意見（「三笠ニュース」10月号記載）を受け、承認しました。

3 協議事項

(1) 入門講座担当者の交代

① 教区の入門養成講座研修に数人を派遣し、受講終了後講座を担当していただきます。

(2) 2020年度行事と予算

① 提案通り承認しました。

(3) 会計報告

① 収支予算書（変更・修正あり）を承認しました。

じ かい きょうかい いんかい がつ にち にち  
次回教会委員会は、11月3日（日）14:00 からです。

## コールステラ・ミニコンサートの<sup>ほうこく</sup>ご報告<sup>れい</sup>とお礼

コールステラ<sup>いちどう</sup>一同

「<sup>ないよう</sup>内容の<sup>こ</sup>濃いバラエティに<sup>と</sup>富んだコンサート。

<sup>だんせいじよせい</sup>男声女声の<sup>せんきよく</sup>バランス、<sup>はいち</sup>選曲と<sup>かいせつ</sup>配置、<sup>くふう</sup>解説も工夫されていて<sup>よ</sup>良かった。

<sup>なに</sup>何より<sup>な</sup>アスリートのようにこの<sup>ひ</sup>日この<sup>とき</sup>時に<sup>じしん</sup>自信をもって<sup>たの</sup>楽しみながら<sup>さいこう</sup>最高の

<sup>み</sup>パフォーマンスを<sup>み</sup>見せてくださり<sup>かいじょう</sup>会場の<sup>みな</sup>皆さんの<sup>たの</sup>楽しまれている<sup>ようす</sup>様子が<sup>よ</sup>良く<sup>わ</sup>分かり

<sup>うれ</sup>ました。」との<sup>うれ</sup>嬉しいメッセージをいただきました。

<sup>あや</sup>危ぶまれた<sup>てんき</sup>天気が<sup>い</sup>なんとかも<sup>いちどう</sup>メンバー<sup>れい</sup>同楽<sup>わがねん</sup>しみながら<sup>お</sup>令和元年の<sup>お</sup>コンサートを<sup>お</sup>終

<sup>おうえん</sup>えました。<sup>おうえん</sup>応援してくださる<sup>みなさま</sup>皆様の<sup>やさ</sup>優しい<sup>えがお</sup>笑顔が<sup>ちから</sup>お力を<sup>ごせいどう</sup>くださいました。<sup>ごせいどう</sup>御聖堂<sup>ごせいどう</sup>コンサ

<sup>きよか</sup>ートを<sup>み</sup>許可<sup>み</sup>くださった<sup>みなさま</sup>三笠教会の<sup>みなさま</sup>皆様に<sup>かんじや</sup>心より<sup>れい</sup>感謝<sup>もう</sup>とお礼<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>申し上げます。<sup>あ</sup>ありがとうございます

<sup>い</sup>ました。

## コールステラ・ミニコンサートに<sup>さんか</sup>参加して

榎本 貞子

10月19日（土）13:00～三笠教会<sup>みかきやうかいせいどう</sup>聖堂には<sup>たいふう</sup>台風の<sup>よ</sup>余波の<sup>あめ</sup>雨もやみ、<sup>お</sup>コンサート

<sup>さんか</sup>に参加する<sup>さんか</sup>人々が<sup>さんさん</sup>三三五五、<sup>せいどう</sup>聖堂に<sup>あつ</sup>集まりました。<sup>しかい</sup>司会は<sup>せい</sup>聖歌隊の<sup>おおや</sup>大家さん、<sup>おおや</sup>コールステ

<sup>さいしよ</sup>ラの<sup>みかきやうちえん</sup>最初は<sup>こ</sup>三笠幼稚園の<sup>かあ</sup>子ども<sup>たち</sup>達と<sup>いっしょ</sup>お母さん<sup>たち</sup>達<sup>うた</sup>と一緒に<sup>たの</sup>歌を<sup>よろこ</sup>楽しみ、<sup>わ</sup>喜びを<sup>あ</sup>分かち<sup>あ</sup>合う<sup>あ</sup>集

<sup>ことし</sup>まりで、<sup>ねんつづ</sup>今年で27年<sup>うかが</sup>続いていると<sup>こんかい</sup>伺いました。<sup>れいわ</sup>今回は<sup>とし</sup>令和の<sup>ふさわ</sup>年に<sup>きよくもくなど</sup>相応しい<sup>えら</sup>曲目等<sup>えら</sup>を選ば

<sup>あいま</sup>れ、<sup>しゆわ</sup>合間の<sup>とき</sup>手話の<sup>わたし</sup>時には<sup>まご</sup>私も<sup>いっしょ</sup>孫と<sup>ひろ</sup>一緒に<sup>ひろ</sup>できる「<sup>ひろ</sup>チューリップ」<sup>ひろ</sup>を<sup>ひろ</sup>披露<sup>ひろ</sup>して<sup>ひろ</sup>くださり、<sup>ひろ</sup>と

<sup>きようかい</sup>ても<sup>れんしゆ</sup>よかったです。<sup>とき</sup>いつも<sup>とき</sup>教会で<sup>とき</sup>練習<sup>とき</sup>をしていますので<sup>とき</sup>時々<sup>とき</sup>練習<sup>とき</sup>の<sup>とき</sup>時に<sup>とき</sup>素敵<sup>とき</sup>な<sup>とき</sup>コーラス

<sup>き</sup>が<sup>き</sup>聞こえてくる<sup>き</sup>ことがあります。<sup>こんかい</sup>今回「<sup>るろう</sup>流浪の<sup>たみ</sup>民」の<sup>きよくもく</sup>曲目を<sup>ご</sup>ドイツ語<sup>ご</sup>で<sup>ご</sup>歌<sup>ご</sup>って<sup>ご</sup>くださり<sup>ご</sup>と

<sup>かんげき</sup>ても<sup>かんげき</sup>感激<sup>せい</sup>しました。<sup>せい</sup>テノール<sup>せい</sup>で<sup>せい</sup>聖歌隊<sup>かみやま</sup>の<sup>さんか</sup>岩岡<sup>さんか</sup>さん、<sup>さんか</sup>神山<sup>さんか</sup>さんも<sup>さんか</sup>参加<sup>さんか</sup>して<sup>さんか</sup>おり<sup>さんか</sup>素晴<sup>さんか</sup>らしい<sup>さんか</sup>コー

<sup>ひろ</sup>ラス<sup>ひろ</sup>を<sup>ひろ</sup>披露<sup>ひろ</sup>されて<sup>ひろ</sup>いました。<sup>ひろ</sup>ピアノ<sup>ひろ</sup>の<sup>ひろ</sup>増田<sup>ひろ</sup>さんは<sup>ひろ</sup>横須賀<sup>ひろ</sup>の<sup>ひろ</sup>音楽<sup>ひろ</sup>に関係<sup>ひろ</sup>する<sup>ひろ</sup>ところ<sup>ひろ</sup>で大変

<sup>かつやく</sup>活躍<sup>かつやく</sup>なさっています。<sup>みなさま</sup>これからも<sup>みなさま</sup>皆様の<sup>すば</sup>素晴らしい<sup>せいどう</sup>コーラス<sup>せいどう</sup>を<sup>せいどう</sup>聖堂<sup>せいどう</sup>で<sup>せいどう</sup>響<sup>せいどう</sup>き<sup>せいどう</sup>続ける<sup>せいどう</sup>ことが

<sup>でき</sup>出来ます<sup>でき</sup>ように<sup>さんか</sup>参加者<sup>さんか</sup>の<sup>ひとり</sup>一人<sup>ひとり</sup>として<sup>ひとり</sup>イエス<sup>ひとり</sup>様に<sup>ひとり</sup>感謝<sup>ひとり</sup>のお祈<sup>ひとり</sup>りを<sup>ひとり</sup>奉<sup>ひとり</sup>げ<sup>ひとり</sup>ます。



# マルチノ会

榎本 貞子

11月は初冬に入り10月は大きな台風に見舞われましたが、どうにか火曜日には少しの雨に遭いましたが食事を配ることが出来ました。いつものマルチの会のメニューも温かい献立ですので冷え込む夜は特に喜んで食していただいております。

10月の第4の火曜日にはベースの中のカトリック聖歌隊の中の小中学生の男女11人指導者、父母と小さい子どもさん達が集会室に集まり、ベースの奉仕者のキムさんが「どんな人たちがいるのか？どんな奉仕をしているのか？」を話してくださいました。

ベルニー公園での集まりに参加者の生徒さん達も手をつなぎ大きな輪でお祈りを奉げました。

集まっている人たちに生徒さん達は声をかけて品物を一人ひとりに手渡してとても喜んでくださいました。これから日ごとに寒くなります、引き続き厚手の衣類を集めております。

みなさまの温かいご協力を神に感謝申し上げます。



## マザーテレサ会 11月の予定

- 7日(木) 例会 10:00
- 11日(月) 塚山ホーム
- 12日(火) 横須賀老人ホーム(野比)
- 15日(金) SOMPOケア・ラヴィール
- 18日(月) 花ことば
- 20日(水) 佐藤さん宅
- 22日(金) 上郷湘南グリーン
- 25日(月) 住まいるクラス久里浜
- 26日(火) 衣笠ホーム
- 28日(木) ゆりの花

## 手芸の会 11月の予定

- 7日(木) 10:30~15:30
- 14日(木) 10:30~15:30
- 21日(木) 10:30~15:30
- 28日(木) 10:30~15:30

清掃当番	11月の担当
	2日(土) 7班 (綾部)
	9日(土) 8班 (坪山)
	16日(土) 1班 (沼野)
	30日(土) 2班 (澤野)

# クリスマス・コンサートへのご案内

クリスマス コンサート実行委員会

12月7日(土) 12時30分開場 13時開演 入場料無料  
三笠カトリック教会聖堂にて

12月7日(土) 当教会聖堂で、クリスマス・コンサートが13時から、行われます。  
NPO法人スヴェニールの六人による編成で、オペラからディズニー・メドレーなど、  
大人も子供も楽しめるライン・アップです。お友達や、知り合いの方、教会に来たこと  
ない人を誘い、皆でクリスマス・コンサートをお楽しみください。入場料は無料ですが、  
募金箱は、用意してありますので、ご協力を感謝します。

近隣教会 行事予定

雪ノ下教会 11月10日(日) 15:00 記念コンサート 聖母マリアに捧げる演奏会  
11月24日(日) 18:00 J K (Joy Kamakura community Choir)

20周年ライブ

片瀬教会 11月2日(土) 13:00~15:30

湘南キリスト教セミナー「まもろう、私たちの地球」  
演題「プラスチックによる海洋汚染 現状と対策」他  
講師 兼廣 春之

11月25日(月) 16:00~ 教皇様来日ミサ 東京ドームにて

既にお申込み済みのバスツアーに参加される方は、10:30までに三笠教会にご集合  
ください。

✠ カトリック三笠教会主催 講演会

2019年 11月10日(日)

時間 11:30~12:30

場所 カトリック横須賀三笠教会 聖堂

講師 ジャーナリスト・佐々木宏人氏

とだたてわき

# 『戸田帯刀神父様に学ぶ』

終戦後におきたカトリック保土ヶ谷教会  
戸田帯刀神父様殺害事件の真相を聴く

●太平洋戦争終結の三日後、  
1945(S20)年8月18日の夕刻、戸田帯刀神父はカトリック  
保土ヶ谷教会教区長館で射殺死体で発見された。リベラリストで  
平和を願う師は、憲兵に殺害されたと言われる。

●そして犯人は？  
事件の十数年後、東京・吉祥寺教会に「私が犯人です」と名乗り  
出た男がいた。しかし東京大司教区は事情も聞かず「赦します」と  
伝えて行方は分からない。事件は闇の中へ…。

●事件のノンフィクション「封印された殉教」刊行  
昨年末、カトリック信徒のジャーナリスト・佐々木宏人氏より上下巻  
が出版された。事件の真相は？

戸田帯刀神父様を偲び、平和について考えましょう。  
参加をお待ちします。



## 【講師略歴】



さ さ き ひ ろ と  
ジャーナリスト・佐々木宏人氏

1941年、北海道釧路市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、毎日新聞社入社。甲府支局長時代に戸田帯刀神父射殺事件を知る。経済部長、広告局長を経て中部本社代表を歴任。カトリック荻窪教会所属、関東学院大学キリスト教と文化研究所客員研究員。ジャーナリストとして、戸田神父の事件を8年にわたり取材し、カトリック誌「福音と社会」で連載。それをまとめた『封印された殉教』(上巻:8月15日刊、下巻:9月中旬刊[予定]、フリープレス社)を出版。